

東日本大震災の発災から 10 年を迎えるにあたり、被災された方、避難されている方、ボランティアや支援に関わってきた方が、「今」どのような思いでいるのかを知る機会として「ことば」を集め、広く発信してきました。本宣言は、寄せられた多くの「ことば」を一つ一つ噛み締めながら、私たちが気づかされたこと、大切にしたいこと、考え続けたいことをまとめたものです。「ことば」と「宣言」が東日本大震災や、これまで／これからの災害に活かされることを望みます。また、「ことば」や「宣言」を読まれたみなさまが他者の思いや考えについて、何かを考える機会になれば嬉しく思います。

Voice from 3.11 ことばから紡いだ わたしたちの宣言



あの日のこと、あの日からの思いを忘れない

Voice from 3.11 の「ことばの集い」「みんなの集い」「それぞれの集い」「つながりの集い」で集まった、語られた「ことば」。あの日の悲しみ、あの日からの苦しき、今までの感謝…等、多くの思いが詰まっている。被災していても、被災していなくても、そのいずれもが忘れられない、忘れてはいけないもの。わたしたちはその思いを忘れない。

声なき声に耳を傾け続ける

10 年たって初めて震災に関する気持ちを表した声が多く届いた。「心に空いてしまった穴をどうしたら埋められるか」、「どうしたら防げたのか」、失われたものは、戻ることがない。今も考え、悩み続け声に出せない方もいる。届けられた声の陰に、形にならない声がある。わたしたちはそんな声にならない声にも耳を傾ける。

これまでの、あの時の、新しい「つながり」を大切にしていく

震災で気づかされた様々な「つながり」。わたしたちは人と土地、地域と関わりの中で生きている。震災で失ったつながり。新しくできたつながり。寄せられた言葉からは、さまざまなつながりを大切に生きていこうとする思いが伝わってきた。わたしたちは一人ではなく、つながりによって誰かに支えられ、誰かを支えている。わたしたちはそのことを大切にしていく。

若者の言葉を受け止め、ともに歩んでいく

子どもたちは大人が思う以上に家族や友達、地域や世の中の動きを見ていた。その中で感じた「違和感」「虚しさ」、新たに芽生えた「地元への希望」「確かな決意」。大人はこの思いに寄り添えてきたのだろうか。子ども・若者たちは、これから生きていく主体である。わたしたちは、これらの言葉を受け止め、社会を作る仲間として、ともに歩んでいく。

ひとりの気づきをみんなで分かち合う

東日本大震災は多くの気づきをわたしたちに与えた。その気づきは「いのちやくらしの尊さ」「つながりの多様さ」「コミュニティの大切さ」…本当に多様であった。それは必ずしもポジティブなものだけではないかもしれない。ただ、わたしたちが得たその気づきを一人の気づきに留めず、より多くの方と分かち合い、ともに何かを考える機会にしていく。

原発事故がもたらした悲しみや苦しみに向きあい続ける

東日本大震災では、地震、津波災害に加え、原発事故を経験した。生まれ育った故郷や生活の場から離れての避難生活を続けられる人や、避難生活から故郷に戻られる人など、選択はそれぞれであり、選択できない人もいる。わたしたちはこの出来事を受け止め、個々の選択を尊重し、原発事故がもたらした悲しみや苦しみに向きあい続ける。

教訓を次の災害に必ず活かしていく

東日本大震災では、多くの「いのち」が奪われ「くらし」が壊された。そしてこれらを礎にした教訓が残されている。南海トラフの巨大地震、首都直下地震、気候変動による大規模風水害、噴火、「災害大国・日本」には、想定されている災害は数多くある。これらの災害にその教訓を必ず活かしていく。

2022 年 2 月 11 日

Voice from 3.11 実行委員会

山崎美貴子/福田信章（東京災害ボランティアネットワーク） 栗田暢之/杉村郁雄/津賀高幸/金子和巨/三浦隆一/北村育美（東日本大震災支援全国ネットワーク） 葛巻徹/富田愛（NPO 法人いわて連携復興センター） 木村正樹（一般社団法人みやぎ連携復興センター） 天野和彦/樋口則雄（一般社団法人 ふくしま連携復興センター） 市村高志（NPO 法人とみおか子ども未来ネットワーク） 藤間千尋（3.11 メモリアルネットワーク） 関口宏聡（NPO 法人セイエン） 池座剛（NPO 法人ジャパン・プラットフォーム） 浜田ゆう（NPO 法人レスキューストックヤード） 大城聡/福田健治/吉田千亜（SAFLAN（福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク）） 加納佑一/品田明恵（広域避難者支援連絡会in東京/東京ボランティア・市民活動センター） 山根一毅（公益財団法人 日本 YMCA 同盟） 池本修悟（公益社団法人 ユニバーサル志願センター） 阿部陽一郎（社会福祉法人中央共同募金会） 前田昌宏（日本生活協同組合連合会） 岩田和則（日本赤十字社） 北野一人（「広がれボランティアの輪」連絡会議） 渡辺日出夫（NPO 法人日本 NPO センター） 明城徹也（NPO 法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク） 所澤新一郎

Voice from 3.11 のあゆみ

Voice from 3.11 実行委員会は、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故から 10 年を一つの通過点と捉え、これまで被災者支援に関わってきた多様な組織に所属する「被災者」「避難者」「支援者」34 名の有志が集まり 2020 年 10 月にスタートしました。以降、話し合いを積み重ねながら、組織やプロジェクトとしての考えや思想ではなく、当事者や支援者の個人の「ことば」を大切に、さまざまな活動を展開してきました。「ことばの集い」はすべての取り組みの原点といえます。

被災者、避難者を含め一人ひとりのことばを集めた「ことばの集い」、集まったことばの中からテーマごとに集いをもうけ、東日本大震災に関わる人みんなで「ことば」を噛みしめ、教訓・気づきを、次の世代につなげる目的で開催された「みんなの集い/それぞれの集い」、被災地域の住民やその地域に関わった支援団体、企業、ボランティア等が集まり、つながりをあらためて考える場をつくった「つながりの集い」を実施してきました。そして、これらの集いの集大成が、「Voice from 3.11 ことばから紡いだわたしたちの宣言」です。

本宣言は、274 の一つひとつの「ことば」を実行委員が精読し、その「気づき」を紡ぎ、7 つの宣言に集約しました。本宣言により、一人でも多くの方が、東日本大震災の今を知り、そこから新たな気づきを発見し、ここからの未来について考え、それぞれの立場での行動に広がっていくことを切に願っています。

また、ことばの集いにその思いを寄せていただいた皆さま、みんなの集い（それぞれの集い）/つながりの集い/ここからの集いにご参加・ご協力いただきました皆さまに、この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

2020 年	--
2 月	準備会開始 以後、実行委員会立ち上げまで 12 回開催
10 月	実行委員会立ち上げ 以後、2022 年 2 月まで 14 回の実行委員会を開催
12 月	ことばの集い投稿開始 2021 年 12 月までに計 274 もの投稿があった
2021 年	--
1 月	つながりの集い in 七ヶ浜 開催 (1/11) つながりの集いは「in 七ヶ浜」から各地で計 8 回取り組まれた
2 月	みんなの集い開催 (2/11) 登壇者 9 名と、それまで寄せられた「ことば」を噛みしめた
3 月	各地でつながりの集いを開催 in 釜石(3/6)、in 陸前高田(3/7)、in 東京(3/8)、in 富岡(3/23) それぞれの集い開催 津波・地震編 (3/18)、広域避難者編 (3/25)
4 月	つながりの集い in 宮古開催 (4/11) 震災 10 となる 2021 年 3 月 11 日の一か月後に開催された
12 月	つながりの集い in いわき開催 (12/10) 数度の延期を経て「in いわき」は開催された
2022 年	--
2 月	これからの集い開催 (2/11) 集いに併せて「ことばから紡いだ わたしたちの宣言」を発表
	--

ことばの集い

社会的節目となる震災 10 年を機に、被災された方、避難を余儀なくされた方、その人々を支える支援者など、私たちが経験して気がついたことや大切にしてきたことを「ことば」として集め、社会に広く伝えていく取り組み。今後、集まった 274 の「ことば」を後世に残すためアーカイブ化を図る。

みんなの集い/それぞれの集い

「ことばの集い」で寄せられたことばを岩手・宮城・福島の方々と共に噛みしめ、共感し、自らの想いを語り合う集い。2021 年 2 月 11 日「みんなの集い」、3 月 18、25 日「それぞれの集い」と開催した。「声を上げられない人々」「優しさの連鎖」などの気づきが、これらの集いから生まれた。

つながりの集い

震災で生まれた/再認識したそれぞれの地域での「つながり」を見つめなおし、被災者や支援者の「声」をあらためて大事にしていこうという取組み。岩手県宮古市・釜石市・陸前高田市、宮城県南三陸町（映像作成）・七ヶ浜町、福島県いわき市・富岡町、東京都（広域避難）で実施した。

ことばから紡いだわたしたちの宣言

Voice from 3.11 に寄せられた多くの「ことば」と、集いで語られた「声」から、わたしたちは「気づき」を得た。わたしたちは、その「ことば・声・気づき」を多くの方と分かち合い、大切に、一人ひとりの行動につながることを願い、7 つの宣言をまとめた。

東日本大震災データ

Voice from 3.11 実行委員会調べ

マグニチュード 9.0

日本で起こった地震では最大規模の地震でした。最大震度は 7。

全壊住宅 **12 万 2,005 棟**
半壊住宅 **28 万 3,156 棟**
一部損壊住宅 **74 万 9,732 棟**

全壊住宅、半壊住宅、一部損壊住宅を合わせると、その数は 115 万 4,893 棟。生活の基本となる住宅への被害は影響がはかり知れません。

社会福祉協議会が設置した災害ボランティアセンター経由の
岩手/宮城/福島県でのボランティア活動者数

154 万 5,567 人

中央共同募金会の「ボラサポ」の助成を受けて
活動したボランティア活動者数（概数）

550 万人

上記の活動者数は重複していることもあります。また活動者数のカウントはさまざまであることから、正確な活動者数は把握できていませんが、数百万人の善意が被災者に寄り添ったことは間違いありません。

死者数 1 万 5,899 人

行方不明 **2,526 人**
負傷者 **6,167 人**
関連死 **3,784 人**

本当に多くのいのちが奪われた災害となりました。現在（2022 年 2 月）も行方不明の方が数多くいる事実にも目を向けなければならないと感じます。

避難者数 最大 47 万人

応急仮設住宅入居者 **最大 31 万 6,000 人**
広域避難者数 **最大 7 万 2,892 人**

地震や津波によって自宅を失ったことによる避難所や仮設住宅での避難生活や、原発事故等によって故郷や生活の場を離れての避難生活（広域避難）を余儀なくされた方等、避難の理由や形態はさまざまです。特に広域避難者は、「東北地方からだけでない上、原発事故による避難指示が出ていない地域からの避難」「母子避難や世帯分離での避難」を選択せざるを得なかった方も多くいます。したがって広域避難者の実態把握は難しく、公表されている避難者数が実数とは必ずしもいえないのが現状です。

上記は、厚生労働省、国土交通省、内閣府、気象庁、消防庁、警察庁、復興庁、全国社会福祉協議会、中央共同募金会のデータを記載しています。

主催・企画 : Voice from 3.11 実行委員会
お問合せ先 : office@voicefrom311.net (事務局)



VOICE from 3.11